

「悩む子どもの背私には押ししたのか」

「いい学校居心地よいとは言えぬ」

の10階から飛び降りた。周囲が考える以上に、指導や保護者呼び出しを深刻にとらえたとみられている。両親やその友人、教師らは、悲しみを繰り返さないため、反省文や遺書から生徒の心を読み取って、「希望のメッセージ」を探す運動を始めた。

新座市で昨年9月、市立中学2年の男子生徒(当時13)が学校への反省文と遺書=別稿=を残して自殺した。学校であめを食べたことで教師から指導を受け、翌日、保護者に「後日、学校にきてほしい」という電話があって間もなく自宅マンション

## 新座の中2自殺 両親・教師らが心情語る 悲しみ 希望につなぐ道探し

男子生徒の自殺について話し合う人たち。20日夜、新座市で



して、まじめな顔で確認したかもしれない。言葉少なで見えたので、くどくど聞くのはやめました。彼は、その約一時間後に自殺を図ったという。学校への反省文と「自爆だよ」と書かれた遺書が見つかった。

「つらくて、死にたいほど悩んでいた子どもの背中を、私はほんと呼した人間なのか……」

涙ながらの母親の吐露に若い女性が発言した。「リーダー」の気持ちがよく分かる。部活動の部長だった私は仲間からよく、先生にえ

こひいきされていると言われた。実際はすつとセクハラを受けていた。いまもきずはいえない」。言葉が止まらね、体験を語った。

ある母親は「私も学校から電話があったら(確認など)同じことをする。自分の問題にしたい」。男性教師は「私の子どもにも自殺の心配がある。いい学校が必ずしも子どもにとって回心地のいい学校ではない。そこが教師には見えていない」。

自殺した男子生徒の父親(58)は「何をやらたら、いっぱいいやったよと息子に言ってあげられるのか、今

「生命の応援団」ではこうした集いを続けてゆく考えで、次回は二月十七日午後六時半から新座市の東ふれあいの家で開く。

### 中2男子の遺書

ささいなこととして  
みんなきれませぬ  
まさんえやつだよ  
死ぬたもバカだよ  
ごめん  
じゃあね  
ごめん

はわからない。教えて欲しい」と訴えた。

「生命の応援団」ではこうした集いを続けてゆく考えで、次回は二月十七日午後六時半から新座市の東ふれあいの家で開く。